
海洋放出ありきでいいの？

「トリチウム汚染水の取扱いに係る説明・公聴会」

直前！緊急事前学習会

開催のお知らせ

8月30～31日、富岡町・郡山市・東京の3会場で、「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する説明・公聴会」が開催されます。除去しきれないトリチウム等の放射性物質を含む汚染水の処分について、原子力規制委員会は、「海洋放出が唯一の選択肢」として、年内の放出決断を迫っています。経済産業省においてもまた「海洋放出」を軸として、議論が進められています。

しかし、「海洋放出」は本当に唯一の選択肢なのでしょうか？その他の様々な可能性が本当に検討されているのでしょうか？この「公聴会」に至るプロセスは、地元を含む合意形成の正しい手続きがなされていたでしょうか？

本学習会を主催する、原子力市民委員会、原子力資料情報室、国際環境 NGO FoE Japan は、それぞれ、8月31日、東京の公聴会会場にて、代表が意見表明をする予定です。また、NPO 法人 APAST も、書面での意見提出を行う予定です。しかし、公聴会での意見表明は5分、書面での意見提出は約1600字と限られたものであり、意見の背景を含めて、十分に説明できるものではありません。

本学習会では、各団体の意見や見識に基づき、トリチウム等汚染水の今後の取扱いについて、あらためて学習し、議論する予定です。

■ 日 時： 2018年 **8月29日** (水) 12:00～14:30

■ 会 場： 文京シビックセンター会議室 A+B

東京メトロ丸の内線・南北線『後樂園駅』徒歩3分、
都営地下鉄三田線・大江戸線『春日駅』徒歩3分、JR 総武線『水道橋駅』(東口) 徒歩12分

■ プログラム (予定)：

(1) トリチウム汚染水をめぐる技術的な課題と長期保管のビジョン

後藤政志 (元東芝 原発設計技術者、NPO 法人 APAST 理事長)

(2) トリチウムの人体への影響と放出への懸念

伴 英幸 (原子力資料情報室共同代表)

(3) 公聴会での意見表明、および提出意見について

原子力市民委員会として**細川弘明** (原子力市民委員会事務局長・京都精華大学教授)

国際環境 NGO FoE Japan として**満田夏花** (国際環境 NGO FoE Japan 理事)

原子力資料情報室として**伴 英幸**

NPO 法人 APAST として**後藤政志**

ほか

(4) 意見交換・質疑応答

■ 資料代：500円

■ 主 催：原子力市民委員会、原子力資料情報室、
国際環境 NGO FoE Japan、NPO 法人 APAST

本件に関するお問合せ：原子力市民委員会事務局

〒160-0003 東京都新宿区本塩町4-15 新井ビル3階(高木仁三郎市民科学基金内)

Tel & Fax 03-3358-7064 E-mail: email@ccnejapan.com <http://www.ccnejapan.com>